

(7) 景観・環境

① 景観

2007（平成19）年12月に景観計画などを策定し、良好な景観形成を図る区域を市全域として、景観形成基準などを定めています。

また、本市特有の景観や、歴史的価値のある建造物などを含む数少ない景観を有する地区を景観形成重点地区に指定しています。



▲歴史と文化の道地区

② 自然緑地と都市緑地

自然緑地（山林、農地）の面積は、34,437haで、市域面積の62.9%を占めており、桜島地域のはほぼ全域、吉野地域の一部の7,282haの陸域及び26.5haの海域は、霧島錦江湾国立公園に指定されています。

一方、都市緑地のうち、本市の都市計画決定された公園などは、2021（令和3）年3月時点で334haが開設されており、都市計画決定されていない公園などを含めると470haが開設されています。

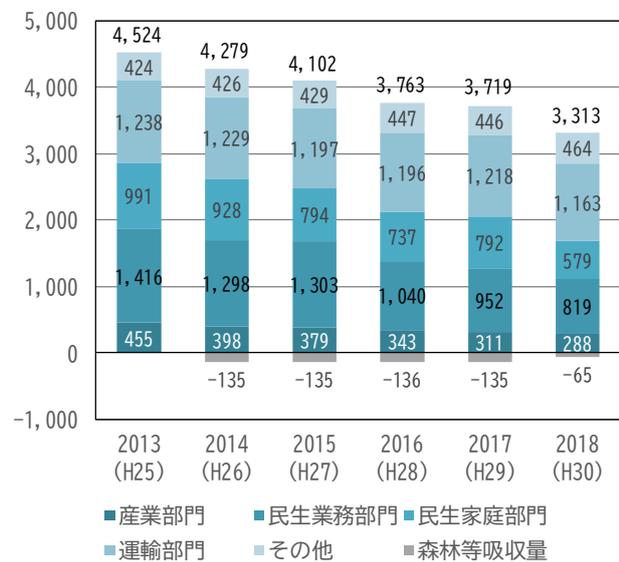
市民1人当たりの都市公園面積は7.9㎡となりますが、全国平均（10.7㎡/人：令和元年度末）と比べ、依然として低い水準にあります。

③ CO₂排出量

CO₂排出量は、年々減少しています。

2018（平成30）年度の部門別CO₂排出量は、運輸部門が最も多く、次いで民生業務部門、民生家庭部門、産業部門となっています。

（千トンCO₂換算）



資料) ゼロカーボンシティかごしま推進計画

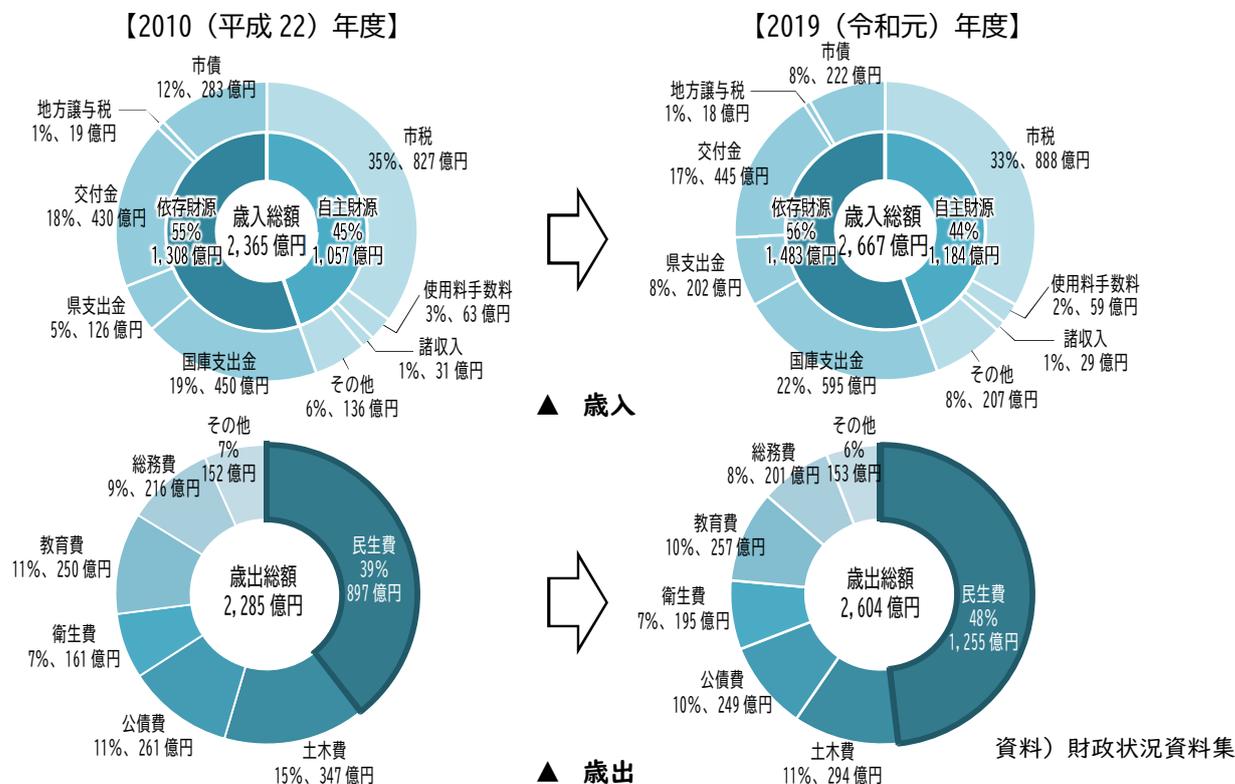
▲ 部門別CO₂排出量

(8) 財政

① 歳入・歳出

近年の市の歳入に占める自主財源の割合は44%程度となっています。

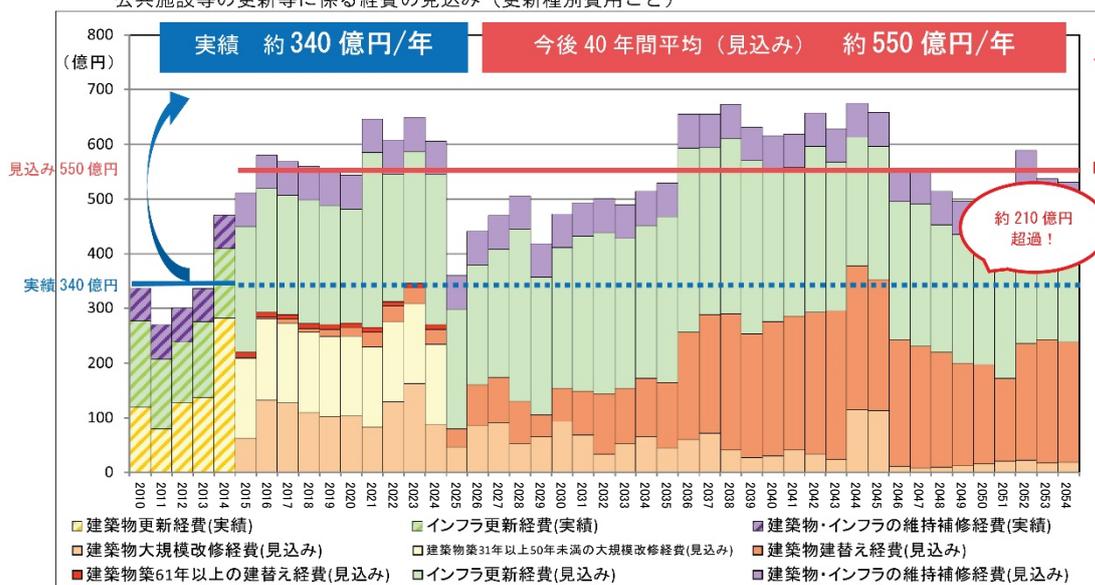
歳出については、福祉に関連する民生費の占める割合が増加し、土木費が減少しています。



② 公共施設等の維持・更新費

公共施設等の維持・更新費は、今後、平均で年間約550億円が必要と試算されており、これまでの実績よりも大幅な増加が見込まれます。

公共施設等の更新等に係る経費の見込み（更新種別費用ごと）



(備考) 総務省の公共施設等更新費用試算ソフトを用いて作成（企業会計分も含む。）

資料) 鹿児島市公共施設等総合管理計画

▲ 公共施設等の維持・更新費